

いのちを守り、いのちを育み、いのち輝かせる竹田市づくりに向けて

リジェネレーションという再生



大分県下の合併した自治体のなかで、最も人口減少率が高く、超過疎化に苦しんできた竹田市。著しい人口減少のなかで竹田市は今、その社会に適応した社会を構築する必要に迫られています。

まず、私達が知らなければならないことは、竹田市変革の原動力となる財政状況です。令和7年度から5年間の竹田市財政収支の見通しは、約15億5千万円の赤字。

歳出については、グランツたけた、図書館、歴史文化館、クアハウス、久住高原農業高校寮などのハコモノ建設や市街地の無電柱化などの大型事業に伴う借入金の返済が多額にのぼり、財政運営に重くのしかかっています。また、現在取り組んでいる市民生活に直結した防災情報伝達体制整備事業や火葬場整備、6つの市のごみ処理を担う新環境センターの負担金事業などの新たな施設整備もあり、この5年間での歳出の大幅な減少は見込めません。

一方、歳入は合併算定替により地方交付税も減り、また、合併特例債の終了に伴い、将来負担を軽減するために地方債の借入を制御する必要もあり、総額では減少していきます。

これらにより、財政構造の弾力性を示す経常収支比率は、今後5年間は99%を超える期間が続き、これまで以上の硬直化を迎えます。支払先の決まったお金しか入っていない財布を持たされている状態です。

しかしながら、私達は何もできない訳ではありません。いや、こういう状況だからこそ、社会構造を変革させ、新しい竹田市の暮らし方を築いていかなければならいと強く認識しています。

では、人口減少という時代に対応した社会を構築するうえで、この財政状況下で私達にできることは何でしょうか。私が重要と考えているのは「リジェネレーション」です。再生や甦生などと訳されていますが、その考え方は「いのち」をすべての行動と決定の中心に据えることでもあります。例えば、竹楽。竹楽は経済効果や動員数などを事業の目的にはしていません。その目的は里山保全。自然と人間の共生の場づくりのために竹楽を実施しています。こういう観点で私達の暮らし方を検証し改善しながら、竹田市の暮らし方を再構築していくのです。そして、そうすることで、竹田市は「いのち」に視点を置いた思いやりのある社会になれると確信しています。

先の県下人口減少率の比較では、この4年間の移住施策が効果を上げ、ついに最下位を脱出した竹田市。人口減少にあらがいがら合わせていく、いわば戦略的縮小は始まったばかりです。



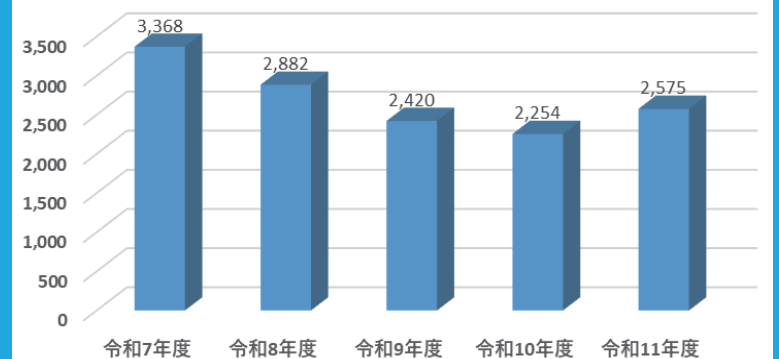
竹田市の財政収支の見通し

(単位:百万)

年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
歳入	19,136	18,183	18,507	18,256	17,961
歳出	19,869	18,677	18,977	18,428	17,646
収支	△ 733	△ 494	△ 470	△ 172	315

財政調整用基金残高の見通し

(単位:百万円)



竹田市長 土居 昌弘

竹田は変わる。私達が変わる！

竹田市再生の現場を紹介。暮らしが起点の政策施策で竹田市を再構築します。



移住者数、4年連続過去最高

H27年度 13世帯26人 → R6年度(2月末) 47世帯83人

移住者数は、10年前の3倍以上！社会人インターンシップ事業の実績も増え、移住者はそれぞれ会社に就職し、地域のために働いています。何事も政策が重要なのです。



市交際費44%カット！市長車も変更

支出基準を厳格化し、著名人を招いてシンポジウムを開き、交流会で懇親を深めることなどを止めています。また、市長車もアルファード(500万円)からフィット(200万)に。燃費も1ℓ10kmから22kmへ。燃料高騰時には効果大！



高齢化社会への対応

高齢者単身世帯が増加する中で見守り声かけ、集いの場の充実。燃えるゴミ袋の小サイズも実現。県下初の住宅用火災報知器取付事業の開始。後期高齢者の緊急連絡先や医療・介護情報を消防本部で登録。などなど、時代に即した施策を実施。



熊本県側の442号を再整備

竹田市からの要望を受け、熊本県が久住側の大分県境から瀬の本交差点の道路を抜本的に改良します。やまなみハイウェイから久住へ、ようこそ。長年の懸案事項が解決します。



書かない窓口 行かない窓口

DXが県下で最も遅れていた竹田市。慌てて竹田市DX推進計画を策定し、時代に追いつく取り組みを始めています。業務の効率化を進め、市役所の仕事が変わります。



大蘇ダム 国の直轄管理へ

国が責任を持ってダムの浸透抑制と農業用水確保を行い、ダム管理も国が行う方向で協議していきます。農家の方々が求める水を用意するのがダム建設の目的。今後も注視します。



世界かんがい施設遺産へ

竹田市にある貴重なダムや井路などを後生に引き継ぐため、世界登録に向けて活動中。昨年11月には、市内小学校の児童による学習発表会も。かんがい施設は、大切な教材。私達の誇りです。



時代にあわせた行財政改革

合併当時のまま残っていた公の施設。老朽化する公共施設の整理と長寿命化を計画的に進め、限られた財源と人材を最大限に活用し、よりよい市民サービスの持続的な提供を目指します。



マタラム大学との協力協定締結

竹田市と外国を行き来する有能な人材を育む高度外国人材育成還流事業を展開しています。インドネシア国立マタラム大学との学生インターンシップ協力協定で、多くの学生が竹田で実習中です。



農業振興対策も充実

新規就農対策として、ファーマーズスクールに加え、スタートアップファームたけたを設立・運営。畜産飼料高騰対策をはじめ、各種支援・補助により生産者の負担を軽減。力強く農業を後押ししています。猟期内イノシシの報奨金増額やワイヤーメッシュ柵の助成なども実施。新たに果樹振興にも取り組んでいます。



ウェイクボード施設撤去

長湯ダム湖のウェイクケーブル。運営者はいなくなり、設置者も施設を撤去する気配がないため、市が2,600万円をかけ水上部分だけを撤去。美しい景観を活かした地域づくりが始まります。※水中の施設はまだ撤去していません。



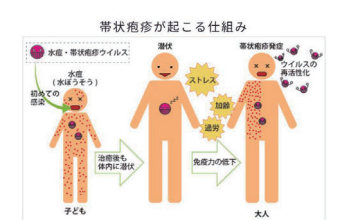
企業へ積極的誘致活動

若い世代が働ける場所が不足しています。企業誘致を積極的に行い、若者が集える竹田市づくりを進めます。この4年間の企業誘致の実績は、7件。まだまだこれからです！



3歳未満の第一子保育料無償化・助成事業 (R5.4～)

少子化対策と保護者負担軽減を図るために実施。認可保育施設と認可外保育施設、どちらに通っていても支援を受けられます。



带状疱疹ワクチンの助成 (R5.4～)

満50歳以上の方の带状疱疹ワクチン接種に助成。発症率を低減させるとともに、重症化を予防します。接種を受ける前には、かかりつけ医等に相談してください。



こども診療所を改革！ 目指すは安定的な運営

ご迷惑をおかけしており、申し訳ありません。休診に至ったすべての原因を改善し、5月にはこども診療所を再開して、新たな小児医療体制をつくります。



就学前と小学校の連携 架け橋プロジェクト (R4.4～)

幼児教育施設と小学校が連携し、幼児と児童に切れ目のない支援体制を築いています。また、専門家を派遣して、就学前からの支援を実施しています。



市内中学校の標準制服の導入と 購入の助成事業 (R5.4～)

多様性に配慮した標準制服を導入し、保護者の経済的な負担も軽減しています。また、制服購入にかかる助成、およびユース事業も開始。



たけたんインクルーシブ学籍 <竹田式副次的な学籍> (R6.4～)

支援学校に通う児童生徒が居住地校とのつながりを継続するため、居住地校に副次的な学籍を持つことができる制度を新設。みんな一緒です。



義務教育課程の教育環境充実

学校再編を進め、豊かな可能性を持った子ども達に一人でも多くの友達をつくってもらい、教科専門の教師がきちんと教えられる体制を提供します。子ども達の為に、教育環境の充実を。



竹田市からののお知らせは、公式ラインで

多様なニーズに合わせた情報発信に努め、行政サービスの更なる向上につなげます。友だちになってください。とても便利です。